

# はつかさん

第15号

発行 天津地域振興協議会  
総務企画部編集委員会  
印刷 米子ワークホーム

## 古道を訪ねて (清水井・赤猪岩神社)

清水川のバス停より山側へ入ると、樹木に囲まれ、こんもりとした所に、焼死の大国主命が蘇生されたと伝えられている、古めかしい井戸があります。

裏の手間要害山の松がなくなり、こんこんと湧き出ていた水も、水量は減りましたが、現在も集落との深い関わりを保ち、古くから『清水井戸』と呼ばれ親しまれています。清水井については、そばに建てられている案内看板に目を通していただきたいと思えます。



清水井

また、従来、出雲大社本殿東側の社に、キサガイヒメ、ウムギヒメの二神は鎮座されていますが、今回清水川神社の御祭神にも、このお二方の神が入って居られる事が、大塚道夫氏の調査で解りました。

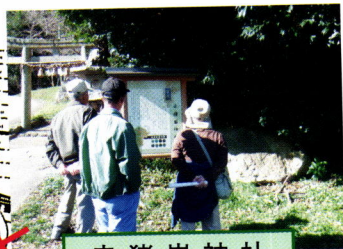
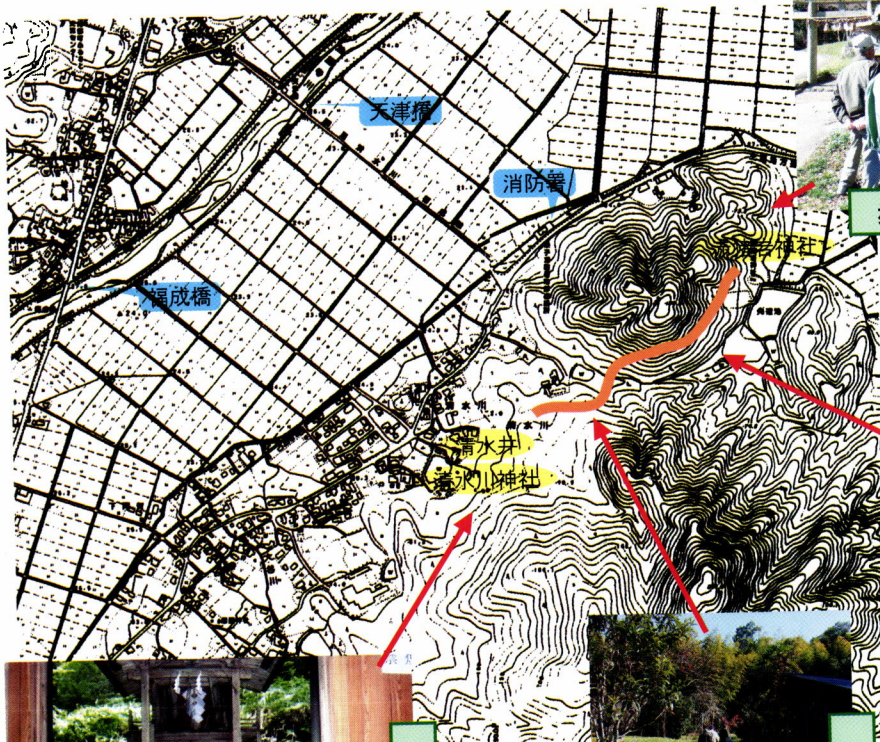
この事実が解明された事により、清水井と清水川神社とのつながりが一層深くなりました。

さて、この『清水井』と、寺内にある『赤猪岩神社』とを結ぶ古道(山道)は、今まで荒れ放題で通る人もいなかったのですが、古事記編纂千三百年を節目にこの地を広くPRしようと、昨春秋、町により立派に整備されました。

二月に入ったある日、まだ雪の積もったこの古道に動物の足跡と共にたくさんの靴跡を見かけました。古事記によるこの古道を散策してみようと歩かれた足跡だと直感しました。

この古道の周りには、特に珍しい植物や樹木が生えているわけではありませんが、春ともなれば多くの人が、この道を探ねられるだ

ろうと思えます。神話として広く人々に親しまれてきた古事記に思いを寄せ、何かを感得していただけたらと思えます。  
(清水川・大塚泰次郎)



赤猪岩神社



清水川神社



古道入り口



古道

### 幼少期の 天津の思い出

初めに思い出されるのは、当時の大スター長谷川一夫主演の映画「関の弥太っぺ」ロケが境内の法勝寺土手であり、学校の粋な計らいで、全員が見に行けたことです。

次に母塚山の遠足です。頂上付近に赤土がむき出しになった急斜面があり、お尻の下に敷物をしき、一気に滑り落ちるのです。結構距離があり、スリル満点でした。

法勝寺川での水泳も思い出です。六年生になると夏休み前に川の安全を調査するために担当の先生と入るのです。粘土が堆積していた高い岸辺からの飛び込みは最高でした。

もう一つの思い出は、神社の秋祭りです。該当集落の子どもは、学校が半ドンとなりました。神社のお参り、屋台に並ぶ品々の買い物をして楽しみました。家では親せきの人が集い、ドジョウ汁を囲み宴会をしていました。以上セピア色の懐かしい思い出です。

(境・丸山 寛)



昭和35年 天津小学校



昭和41年 天津小学校最後の卒業生

### イチヨウの木の下で

今はTMSの資材置き場になり、見る影もない。朽ちた木造の体育館が資材に埋まりながら辛うじて残り、東端にそのイチヨウの大木が一本だけ昔のように立っている。

その日も忠霊塔を左に見ながら、学校の玄関への坂道を通り過ぎ、本棟から続く炊事場と体育館の間から中庭に入った。中庭には池があり、その左端を通って渡り廊下に入ると、下足場に靴を置いた。

渡り廊下の向こうにはトイレ棟があり、その間の空き地にはウサギ小屋とカメの池とイチジクの木があった。それを横目で見ながら、別棟の二階の教室へ上がった。

朝、先生から転校生の紹介があった。面長で目鼻立ちがしっかりし、すらっとした垢ぬけた服装の女の子が先生の脇に立っていた。長い髪が肩までかかり、円らな瞳がカチューシャの下で微笑んでいた。少女の輝きでぼくは初めて自分のみすぼらしさに気づいた。

女の子はぼくの班になり、早

速掃除を一緒にすることになった。掃除場所は、ぼくたちの教室がある棟の東側の庭で、休憩時間になるとゴム飛びやサクラネンボをし、ぼくらにツルツルに踏み固められていた。イチヨウ並木、その端に窯やプラタナスがあり、晩秋には黄色いイチヨウの葉で埋まった。

ぼくらは黙って竹箒で掃いた。その女の子は横顔に長い髪をなびかせ、肌色のパンティストッキングを履いたお尻をスカートからはみ出させて、集めた落ち葉をソウキに入れていた。

ドキッと視線をそらすと法勝寺川の土手と要害山が見え、見上げると、そのイチヨウの木がぼくらをじっと見下ろしていた。

その日以来その子を入れて、ぼくらは三十人になった。

秋には母塚山に登り、キノコ狩りと土すべりをした。中海へハゼがまったく釣れない釣り遠足に行った。春には青木の土手で桜を見、夏に海でキャンプをし、汽車で関西に修学旅行に行った。

(S41年度卒業・宮倉 誠)

# 法勝寺電車

法勝寺電車と呼ばれ親しまれていた電車が、大正十三年八月十二日の路線開通から昭和四十二年五月十五日までの間、天津地区を走っていました。

天津地区には、天津駅と阿賀駅の二つの駅があり利用されました。天津駅は現在の清水川にあり、阿賀駅は上阿賀で、支線の母里線との分岐駅でもありました。



天津 駅



デハ201形203号電動客車

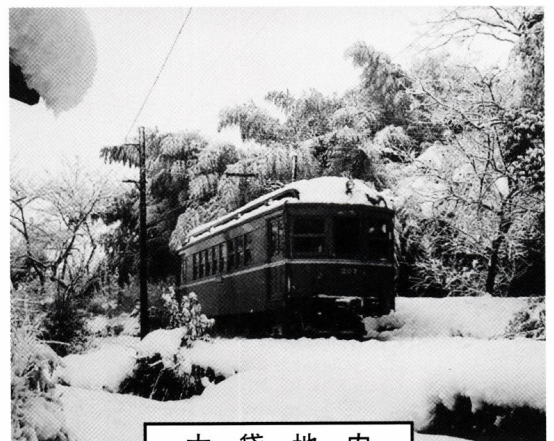
当時走っていた車両が南部町内に保存されています。西伯小学校の敷地に入るとすぐに目につく電車です。平成二十三年三月に鳥取県指定保護文化財に指定されたデハ201形203号電動客車は、日本車輛製造で一九二二年（大正十一年）に製造されたとされています。

また、米子市元町商店街パティオ広場に保存されているフ50形フ50号附随客車も走っていました。これは、明治二十年、英国パーミンガムで製造され、関西鉄道が明治二十二年に輸入した日本国内現存最古の木造二軸二等客車です。法勝寺電車は、米子、法勝寺まで運転された軽便鉄道で、路線距離は営業キロで延長十二・四km、支線を含めて十七・七kmを運行していました。



法勝寺 駅

大正十一年、法勝寺軽便鉄道会社が創立され鉄道敷設の計画が始まりました。大正十二年工事に着工し、大正十三年七月八日、米子町、大袋が開業しました。次いで、大正十三年八月十二日に大袋、法勝寺が開業し天津地区にも山陰地方初の電車が走りだしました。大正十四年一月十二日には伯陽電鉄株式会社に社名を変更しました。昭和五年一月一日からは、県境をトンネルで越える阿賀、母里の支線を開業しました。しかし、第二次世界大戦の進行に伴い、昭和十九年一月、軍の命令で阿賀、母里は不要不急路線の指定を受け、昭和十九年二月十一日、阿賀、母里の支線を休止し、レールなどの鉄材は軍需用に供出されました。



大袋 地内

さらに昭和十九年十月三十一日に経営不振のため伯陽電鉄は島根県の広瀬鉄道と合併し、山陰中央鉄道の法勝寺線となりました。次いで昭和二十八年九月十五日に日ノ丸自動車山陰中央鉄道を吸収合併し、法勝寺電車は同社の法勝寺電鉄線となりました。

ちなみに、昭和三十四年時点で、米子、法勝寺は一日十五往復、おむね約六十分毎の運転だったそうです。昭和三十四年九月十七日には、休止中の阿賀、母里は正式に廃止になりました。

そして、昭和四十二年五月十五日には法勝寺電車は全線廃止となりました。

(写真提供：故 祖田 定一氏)  
(渡邊 悦朗)



清水川の子ども会は、四世帯で、一年・三年・四年（二名）・六年の五名で、とても子どもの数が少なくなっていました。みんな仲良く行事に参加してくれています。

夏休みになると、集落の方と清水川の水路で水質調査をしています。大騒ぎしながら皆で水路に入り、色々な生物をタモですくいます。それを、自然観察指導員の桐原真希さんに説明していただき、親も子どもも大変勉強になりました。今回はヘビ、前回はスッポンを捕まえたり、ヒルに噛まれた子どももいて驚きました。また、清水川周辺の川には、アメリカザリガニが大変多いことも分かりました。



清水川の水路には色々な生き物があります



グラウンドゴルフ 初挑戦！

今年のお楽しみ会では、交流センターに新しく芝が植わったので、グラウンドゴルフを開催する事にしました。子ども達は、芝が生えたグラウンドを見て大興奮！それぞれが好きなボールを選び、いざスタート。慣れないクラブさばきではありましたが、子ども達はグラウンドを隅々まで走り回り、一生懸命プレーを楽しんでいました。また、今年は天津地区で夏祭りを開いていただき子ども達は大変喜んでいました。

地域・集落の皆さまには色々とお世話になり感謝しています。これから子どもたちが笑顔でいられるように温かく見守ってくださいますようお願いいたします。  
(清水川育成会長・西本 美恵)

### 編集後記

先立って韓国・ソウルに旅をしてきました。行くまでは、気温がマイナス十七度と聞いていましたが、ソウルは晴れて気温マイナス一度、思ったより寒くはなく安心しました。大陸性気候の三寒四温の暖かな日にあたり、翌日は気温三度と良い天気にも恵まれました。旅は良いものです。

旅は、遠くに出掛けるだけでなく近場を歩いてみるのも小さな旅です。法勝寺川の川土手を歩くと、美しい自然の風景が広がりのどかさがあふれています。故郷の小道を歩く小さな旅、皆さんも楽しんでみませんか。広報「はつかさん」今月号は、故郷の懐かしい思い出を綴ってもらいました。  
(野口 隆資)

### 平成二十三年度の 広報編集委員あいさつ

今号が平成二十三年度の広報『はつかさん』の最終号です。一年間ご愛読ありがとうございました。

#### 編集委員

- 野口隆資(谷川) 野口賢治(谷川)
- 渡邊悦朗(上阿賀) 本田 靖(清水川)